

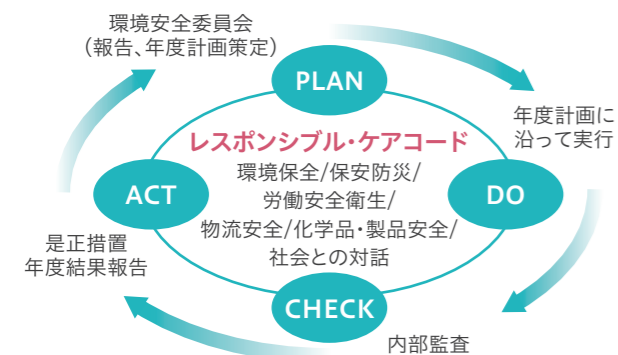
当社グループは、化学物質を取り扱う企業として社会に対し大きな責任を負っています。その責務を果たすべく、化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至るすべての過程において、自主的に「環境・健康・安全」を確保し、活動の成果を公表して社会との対話・コミュニケーションを行うレスポンスブル・ケア（RC）活動に取り組んでいます。

レスポンスブル・ケアマネジメント

体制

1992年よりRC活動を開始し、策定したRC中期計画（2022-2027）を達成するため、全社にISO14001*を基本としたRCマネジメントシステムにて、PDCA（Plan, Do, Check, Act）による目標管理、継続的改善を行っています。また、RC活動を推進する組織として環境安全・品質保証部担当役員を委員長とする環境安全委員会を年1回定期的に開催しており、次年度の目標など討議の内容は経営会議に報告されたのち、承認を経て、取締役会で決議されます。

*環境マネジメントシステムの国際規格、全工場でISO14001の第三者認証を取得



RC 監査

RC監査とは、RC監査指針に基づき環境安全・品質保証部が、工場、研究所、関連会社でのRC活動を確認する活動です。各箇所が行う内部監査やパトロールに加え、各箇所のRC活動が適切に実施され、PDCAサイクルが着実に回っているか、また環境・健康・安全に関わるコンプライアンスに関してチェックをしています。環境安全・品質保証部は、このRC監査において、環境・健康・安全に関わる顕在化した問題、または潜在的なリスクがあれば、明確に示して改善を促しています。

2022年度は工場、研究所、関連会社などに対して、延べ27回のRC監査を実施しました。

「レスポンスブル・ケアマネジメント」

Web https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/management.html



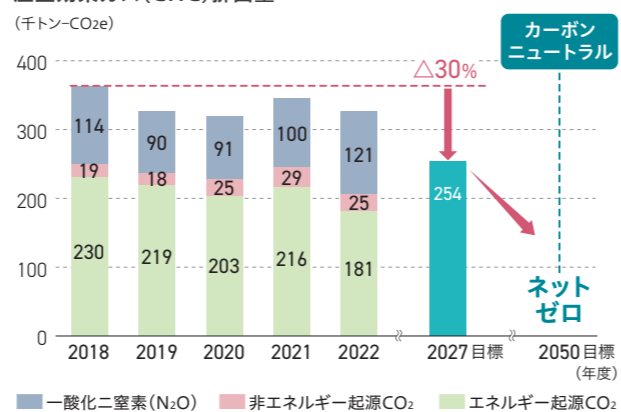
気候変動の緩和・環境保全

温室効果ガス排出量削減に向けた取り組み

当社は、温室効果ガス（GHG）の排出削減をはじめとする環境保全に積極的に努めており、省エネ、燃料転換や一酸化二窒素の削減などの、気候変動の緩和に向けた取り組みを進めてきました。当社のGHG排出量削減（Scope1, 2）については、2050年カーボンニュートラルを目指し、「GHG排出量：2018年度比30%以上削減」という2027年度目標を設定しています。

2022年度は、硝酸プラントトラブルなどによる排出量増加の一方で、メラミン製造停止や小野田工場ボイラー燃料転換などにより排出量を削減した結果、2021年度より減少しました。

温室効果ガス(GHG)排出量

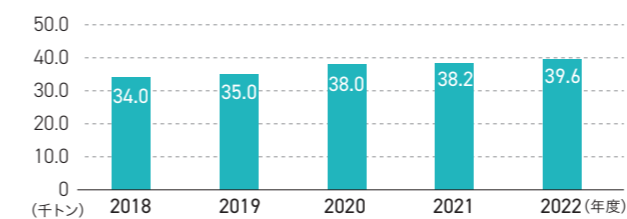


産業廃棄物排出削減の取り組み

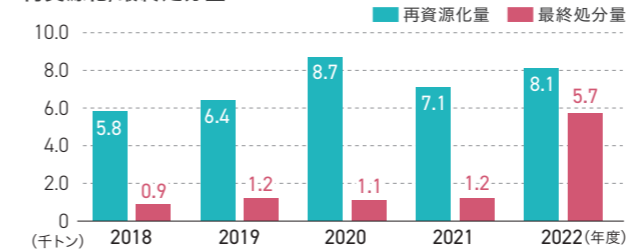
当社では、レスポンスブル・ケア活動を通じて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を一層推進し、産業廃棄物の排出削減に努めると同時に、廃棄物の処分が適正に行われるよう管理を徹底しています。2022年度は産業廃棄物発生量、再資源化量が2021年度に比べ微増で、最終処分量が大幅な増となりました。工場での工事などで発生した残土を産業廃棄物として処分したためです。

プラスチック使用製品産業廃棄物等はプラスチックに係

産業廃棄物発生量



再資源化/最終処分量



*2021年度から工場の残土を算定に追加

る資源循環の促進等に関する法律の施行（2022年4月1日）に伴い、2021年度から集計を開始しました。2022年度のプラスチック使用製品産業廃棄物等量は2021年度と比べて微増となりましたが、再資源化等率は工場にて再資源化等の取り組みを進め、研究所でのデータを精緻化することにより、「50%」という2027年度目標を達成しました。今後も再資源化等への取り組みを進めます。

	プラスチック使用製品 産業廃棄物等量	再資源化等率
2021年度	795t	44%
2022年度	830t	55%

生物多様性保全の取り組み

当社は、「社会が求める価値を提供し、地球環境の保護、人類の生存と発展に貢献する」という企業理念のもと、地球環境の保全に寄与するため、生物多様性に配慮した事業活動を展開しています。「本体内工場におけるビオトープの設置・運営」を2027年度目標として設定し、生物多様性の取り組みを推進しています。2022年度は、埼玉工場に新たにビオガーデンが完成しました。里山の自然に近いかたちで、生き物の生育環境を整えた庭園です。

Web

- 「気候変動の緩和」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/reduction.html
- 「産業廃棄物・汚染物質の排出削減」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/management.html
- 「水資源の保全」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/environment/effective.html
- 「生物多様性への取り組み」
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/conservation.html



埼玉工場 ビオガーデン*
*ビオトープとガーデンを組み合わせた造語です。

また、失われた自然の回帰をテーマに、動・植物にとって生息しやすい水辺と里山林を中心とした生物多様性空間をつくり、地域や工場社員の憩いの場とすることを目的として2008年に開設された、富山工場が運営する「日産バイオパーク西本郷」では、開園15周年を記念して「チューリップお花見ミニコンサート」が開催されました。日頃から施設の維持管理に協力いただいている、地域の住民の皆さん、当社のOB・OG、社員やその家族などから約100名にご来場いただき、地元の吹奏楽団による演奏が行われ、盛会となりました。



日産バイオパーク西本郷 チューリップお花見ミニコンサート

保安防災

当社は安全確保と安定操業、保安力向上を目標に、製造事前評価によるリスクの洗い出し、プロセスKY（危険予知）、設備KYを実施しています。その結果、2022年度は、爆発などの事故はありませんでしたが、富山工場にて、小火が発生しました。これは、製造に用いられる熱媒がバルブの閉め忘れにより漏洩し、その熱媒による酸化発熱が加わって熱媒の発火点を超え、発火したことによります。すぐに従業員が消火を行い、人的・物的被害もなく、環境・近隣への影響もありませんでした。このような小火を二度と発生させないように、再発防止策を徹底し、さらに全箇所へ対策を展開しています。また、工場、研究所ならびに関係会社では、地震防災訓練などの各種訓練を毎年実施し、緊急時あるいは事故発生時に迅速かつ確実な対応を取れるように備えています。



防災訓練(富山工場)

労働安全衛生の推進

当社は、RCマネジメントシステムを通じて、労働災害の防止、労働者の健康増進、快適な職場環境の形成に努め、各事業所の安全衛生レベルの向上を図っています。また、安全確保と安定操業、保安力向上を目指し、各種訓練を毎年実施し、緊急時あるいは事故発生時に確実な対応が取れるように備えています。

2022年は当社において、休業災害が3件、不不休災害が4件発生しました。今後もリスクアセスメント、作業前KYやKYトレーニング、HHK（ヒヤリ・ハット・キガカリ）活

Web

「保安防災・労働安全衛生の推進」

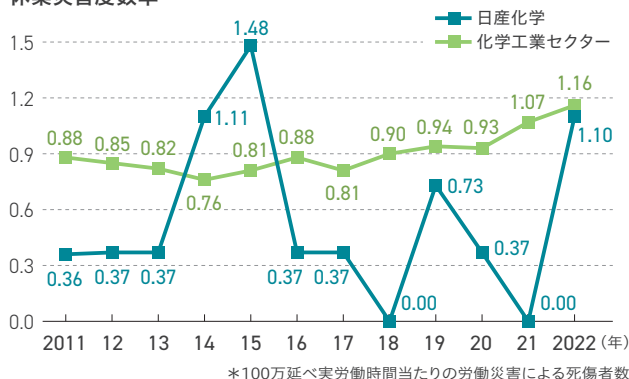
https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/safety.html

「化学物質の管理」

https://www.nissanchem.co.jp/csr_info/responsible_care/chemical.html

動、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）、適切な保護具の着用を推進し、安全常会や労働安全新聞などにより安全に対する意識を向上することで、労働災害ゼロを目指します。

休業災害度率*



化学物質の管理・製品安全

製品ライフサイクルにおけるリスク評価

化学製品の研究開発、製造、販売、変更などに至る各段階で、リスク評価（事前評価）を実施しています。法規制情報、自社または外部試験機関で取得したデータ、原料のSDS（安全データシート）、文献などの安全性試験データのほか、物理化学的性質、作業環境条件などが基礎となります。リスク評価結果に基づき、法規制順守対応、製造現場での作業者ばく露低減のための設備改良、作業方法の改善、手順の明確化、文書化や教育訓練などの適切な対策を講じています。また、これらのリスク評価結果は、社内全関係者に周知されます。

その他、日本化学工業協会（JCIA）が推進する「化学物質が人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究を長期的に支援する国際的な取り組み」であるLong-range Research Initiativeにも参画し、人の健康や環境へのリスク評価に関する研究の進展に向けた活動をしています。

